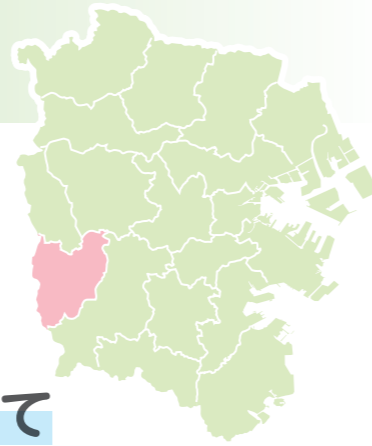




泉区



実施概要

研修タイトル

がん治療の今と緩和ケア病棟について

日時 令和2年11月12日(木) 14時～16時

場所 横浜市泉区医師会 会議室

- 内容**
- 講演1(リモート)「がん治療の今」
神奈川県立がんセンター 舩田 佳子 ジェネラルマネージャー
 - 講演2「緩和ケア病棟について」
藤沢湘南台病院 小原 由里 医療ソーシャルワーカー

参加者 61人

【内訳】

- ①医師(4人) ②看護師(4人) ③歯科医師(4人) ④薬剤師(4人)
- ⑤理学療法士(1人) ⑥ケアマネジャー(26人) ⑦ホームヘルパー(2人)
- ⑧地域包括支援センター(8人)
- ⑨在宅医療相談室(2人) ⑩行政職員(6人)



参加者等の意見

- ★ 在宅で看取りたいと考えているご家族もコロナ禍で増え、いろいろ提案したいと思いました。遺族ケアも参考になりました。
- ★ 最後はご自宅と思われる方、家族だけで介護が大変な方は、定期巡回などを使い、無理をしない介護をして欲しいと思いました。
- ★ 県内のがん治療は大きく様変わりしていると感じました。医療と福祉の連携は他の疾患でも(認知症も)更に進めて行って欲しいと思います。また研修等を通じて、互いを理解する機会はこれからも積極的に行っていきたいです。



令和元年度の取組内容

内容

- 講演1:認知症の人の意思決定能力
- グループワーク:在宅の限界を感じる時
- 講演2:意思決定支援と成年後見制度

参加者 80人

令和元年度の課題と解決に向けた工夫

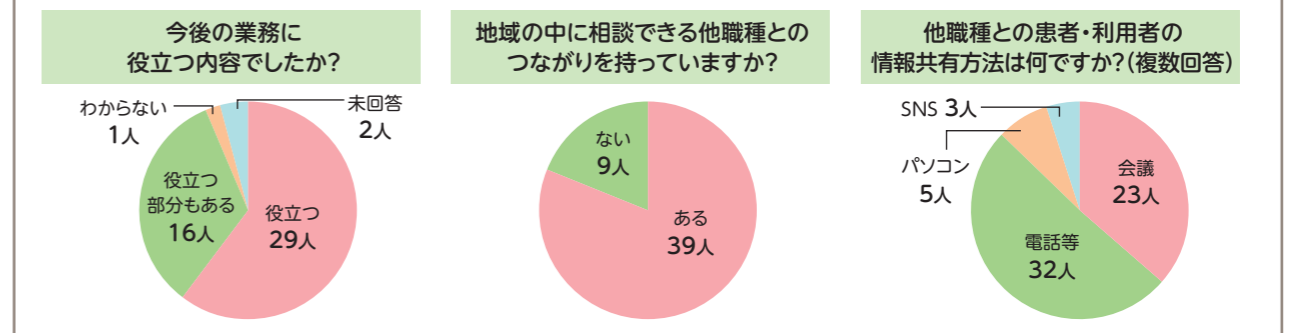
昨年行った事例検討会で、がん患者に対する悩みが多く聞かれ、終末期の医療と介護の連携の課題が分かりました。今回は、がん治療から緩和ケアまでの流れについて理解し、緩和ケア病棟の効果的な利用について学ぶことで、在宅でのサービスに活かせるよう工夫しました。

研修の成果

- 2病院の具体的な取り組み発表から、緩和ケア病棟の役割が伝えられました。アンケートからは、緩和ケアは終末期だけが対象ではないことが印象に残った等、理解が深まったことが成果として読み取れました。また、講演を通して、がん治療から緩和ケアまでの流れや、緩和ケア病棟の効果的な利用等について理解を深めました。
- アンケート結果から、ACPIについて「知っていて説明したことがある」「余命告知後の支援ができる」の2項目が30%程度だったことから、周知していく必要があります。



アンケートの結果(一部)



次年度に向けて

次年度は、ACPIについて学ぶことで、関係者の看取りにおける意識の醸成を構築することを目指します。また、区民が多様な選択を可能にするために、関係者が連携して本人を支える体制を整えていきます。

研修開催においては、今回同様にリモート講演を行うなど、配信方法や環境作りの検討が必要と感じました。